

インゲン (マメ科)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
つるなし種		タネまき			収穫							
つるあり種												
つるあり種												

栽培ポイント

マメ科ですから連作は避け、3～4年輪作します。インゲンはマメ科の中で最も肥料を必要としますから、畝の溝にたつぷりと元肥えを施します。

畝幅は、つるなし種は50～60cm、つるあり種は1.5mがよいのですが、年間の作付がしやすいように1mとし、つるなし種は2条に、つるあり種は1条にまきます。つるなしは3月下旬～4月に、つるありは4月下旬と7月下旬～8月中旬にまきます。

本葉3～4枚のころに追肥し、同時に中耕、土寄せをします。つるあり種は生育期間が長いので、収穫が始まってからも2回追肥をします。

つるあり種は、タネまきの10～15日後につるが開始するので、支柱かキュウリネットを張ります。

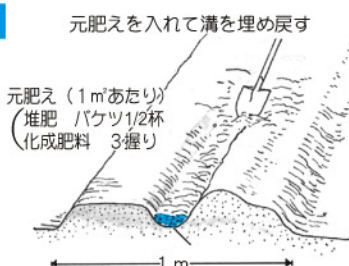
つるなし種は、タネまき後50日ぐらいから収穫でき、3週間ぐらい収穫がつづき、素人にも失敗なく作れます。つるあり種は、収穫までに時間がかかり、支柱を立てる手間もかかりますが、1ヶ月間収穫がつづけられますし、秋どり用に栽培することもできます。どの種類も、さがやわらかな若いうちに順次収穫します。収穫が遅れると、かたくなるうえ、株を弱らせます。

栄養

タンパク質、カルシウム、ビタミンA、Cを多く含み、栄養価の高い野菜です。

1 畑の準備

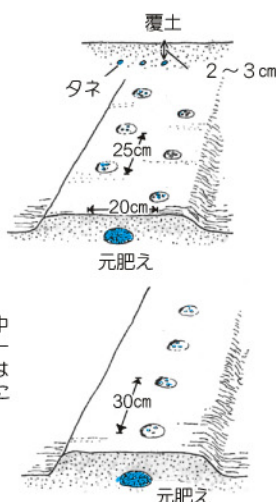
畑には、あらかじめ1㎡あたり1握りの苦土石灰をまいて、よく耕しておく。
タネまきの1週間前、幅1mの畝を作り、畝の中央に溝を掘って元肥えを入れ、溝を埋め戻して土をならす。



2 タネまき

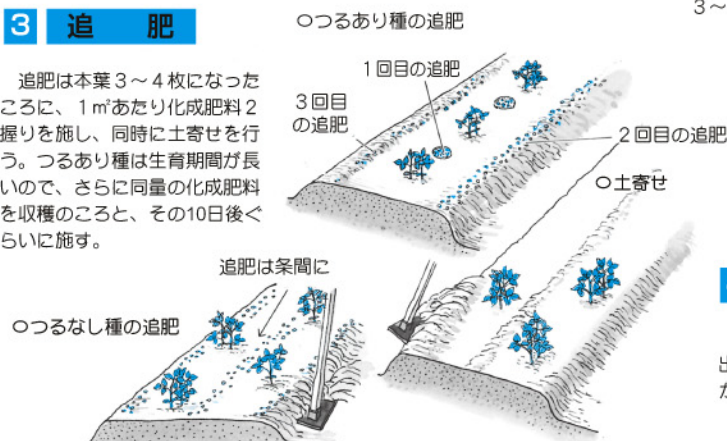
○つるなし種
3月下旬～4月に畝に2条まく。株間は25cmで1カ所に3～4粒ずつまく。

○つるあり種
4月下旬～8月中旬に、畝の中央に1条まく。株間は30cmとり、1カ所に3～4粒ずつまく。



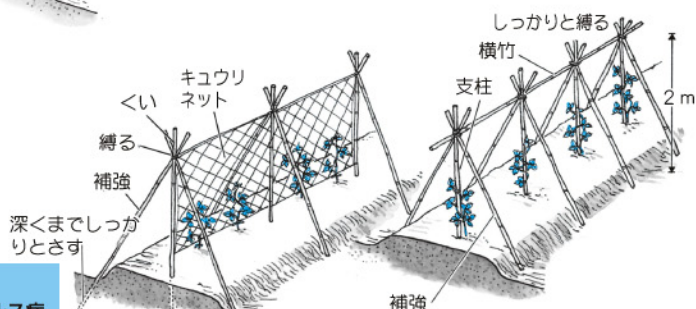
3 追肥

追肥は本葉3～4枚になったころに、1㎡あたり化成肥料2握りを施し、同時に土寄せを行う。つるあり種は生育期間が長いので、さらに同量の化成肥料を収穫のころと、その10日後ぐらいに施す。



4 支柱立て

つるあり種は、タネまき後15日ぐらいからつるが出てくるので、その前にキュウリネットなどを張るか、2mぐらいの長い支柱を立てる。



主な病害虫
◆病気 炭疽病、ウイルス病
◆害虫 アブラムシ、ハダニ